

4. 災害看護をリードする活動

1) 民間団体との連携

(1) 特定非営利活動法人ピースウィンズジャパン (PWJ 本部：広島県) との連携

災害時連携を中心とした本学との連携は、2020 年 1 月の締結以来、看護学部教員が中心となつて継続している。今年度は主に国際人道危機に関する救援事業の専門的助言を行った。また、本学研究科博士前期課程修了者が PWJ の災害救援部門 (空飛ぶ捜索医療団 Arrows) に就職し活躍している。

(2) 災害看護教育の充実

「災害看護実践論 (4 回生 1 単位)」が次年度から必修化することから、履修者により実践的な学習機会を提供するため、高知県総合防災訓練への参加を演習として取り入れることの検討を行った。学外演習となることから、ロジスティクス、安全管理について主催者との検討を行い、また学内では欠席者の代替演習機会についても検討を行った。

(3) 学会活動

日本公衆衛生学会モニタリング・レポート委員会 (健康危機管理グループ) のメンバーとして、個別課題②安全保障上の問題を含む国内外の新たな重要課題～大規模避難民発生事態における公衆衛生対策～に看護学部木下教授が参加し、委員会に報告した。

日本災害医学会には、前年度から引き続き木下教授が国際委員として参加している。

(4) 国際感染症対策 WHO GOARN への参画

WHO と世界の専門機関で構成される GOARN は、国際的な感染症の脅威 (アウトブレイク) に際して、緊急に専門家 (チーム) の派遣を行う仕組みであり、看護学部教員が専門家登録をしている。2025 年 2 月には、アフリカ地域のデング熱流行に関する技術支援に関して、派遣候補者として推薦を受けた。

2) 学内災害プロジェクト

今年度より学内の災害対策は事務局が中心となって運営されることになった。この変更に伴い、これまで看護学部が中心的な役割を担ってきた高知医療センターとの合同災害訓練への参加の仕方が変わったため、今年度は、看護学部独自企画として「大規模災害時の学生の保護に関するワークショップ」を開催した。

ワークショップは、2024 年 10 月 27 日 (日) 合同災害訓練と同時並行して C220 教室で開催し、20 名弱の看護学部教員の参加を得た。ワークショップでは、避難誘導、安否確認から、管理運営に至るまで多岐にわたる議論がされたが、避難が長期になった場合を念頭においた避難生活環境の管理、特に構内にいる学生および教職員のトイレの確保についての議論が中心となった (図参照)。

この結果を受け、今後の災害対策については、学生、教職員の避難場所の確保、災害用トイレ物品の保管、運用ルールの確定を急ぐ。



